



第2週 取引費用の経済学

2012年4月27日
 京都大学 経済学部
 藤井ゼミTA 渡邊 誠士 (M2)

1

取引費用の経済学

- 企業分析を行う上で、企業が置かれている環境(業界)による差異というものが大きく影響する場合が多くみられる。
⇒ 経営戦略分析の重要性
- 取引費用の経済学 (Coase[1937], Williamson[1975])
 - なぜ、企業は多角化を行うのか? 市場が完全であれば企業の多角化は必要でないのではないか? 企業の境界はどのように決まるのか?
 - (市場における)取引には何らかのコストが発生しており、そのコストを最小化するように企業の境界は定まっているのでは?
 - 情報の非対称性が大きな影響を与えている。
- 取引費用の経済学のエッセンスのみを手短かにまとめます。

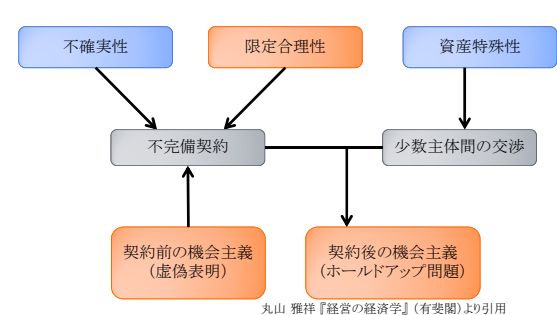
2

仮定と基本要因

- 仮定
 - 限定合理性
 - 人々は合理的であろうと意図されているが、その能力には限界があり、合理性は限定的でしかありえない。
 - 機会主義
 - 人々は情報の格差を利用し、自分の利益のために悪徳的に行動する可能性がある
- 基本要因
 - 不確実性
 - 取引の頻度
 - 資産特殊性(関係特殊的投資)
 - 取引の当事者にとっては重要なものであっても、その他の人々にとっては価値がない(きわめて低い)ものであること。

3

取引費用の発生



```

    graph TD
      A[不確実性] --> C[不完備契約]
      B[限定合理性] --> C
      D[資産特殊性] --> E[少数主体間の交渉]
      C --> E
      F[契約前の機会主義  
(虚偽表明)] --> C
      C --> G[契約後の機会主義  
(ホールドアップ問題)]
  
```

丸山 雅祥『経営の経済学』(有斐閣)より引用

4

取引費用とは?

- 契約前の取引費用
 - 取引契約は限定合理性と不確実性ゆえに不完備にならざるを得ない。
 - 不完備の度合いを低くするためにも、互いに契約内容を調査するコストがかかる。
- 契約後の取引費用
 - 契約締結後も契約履行を監視するコストがかかる。
 - 契約締結後、履行が不完全であるときも、資産特殊性があるときには契約の解除を行うことができないこともある。(再交渉のコスト)
- これらを合わせて取引費用とよばれる。

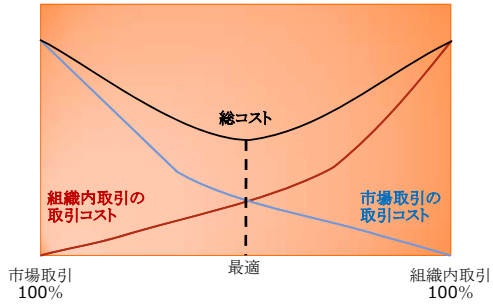
5

簡単な例

- A社(金属部品会社)はB社(自動車会社)に金属部品Pを価格100で10個製造し、販売する契約を結んだ。このPの製造には特殊な機械が必要であり200の投資が必要である。
 - このとき、B社は値下げの要求をしないだろうか?
 - このとき、A社はB社の値下げ要求を見込んで適切な投資よりも少ない投資しか行わないということはないだろうか?
 - この部品が使用頻度の高い、重要な部品であったときにはB社の値下げの交渉力はどうか?
 - 特殊機械への投資額がより大きな場合にはA社の交渉力はどうか?
 - 違約金の設定はどのようにすればよいのか?
- これらが市場取引による取引コストとなる。

6

市場取引コストと組織内取引コスト



7

参考文献

- 丸山 雅祥[2005]『経営の経済学』, 有斐閣。
- 菊澤 研宗[2006]『組織の経済学入門』, 有斐閣。
- P.Milgrom and J.Roberts,[1992]*Economics, Organization & Management*, Prentice Hall. (奥野正寛, 伊藤秀史, 今井晴雄, 西村理, 八木甫訳[1997]『組織の経済学』, NTT出版)
- Coase,R.H,[1988] *The Firm, the Market, and the Law*, University of Chicago Press. (宮澤健一・後藤晃・藤垣芳文訳[1992]『企業・市場・法』東洋経済新報社)
- Williamson,O.E,[1975] *Market and Hierarchies : Analysis and Antitrust Implications*, Free Press. (浅沼萬里・岩崎晃訳[1980]日本評論社)

8